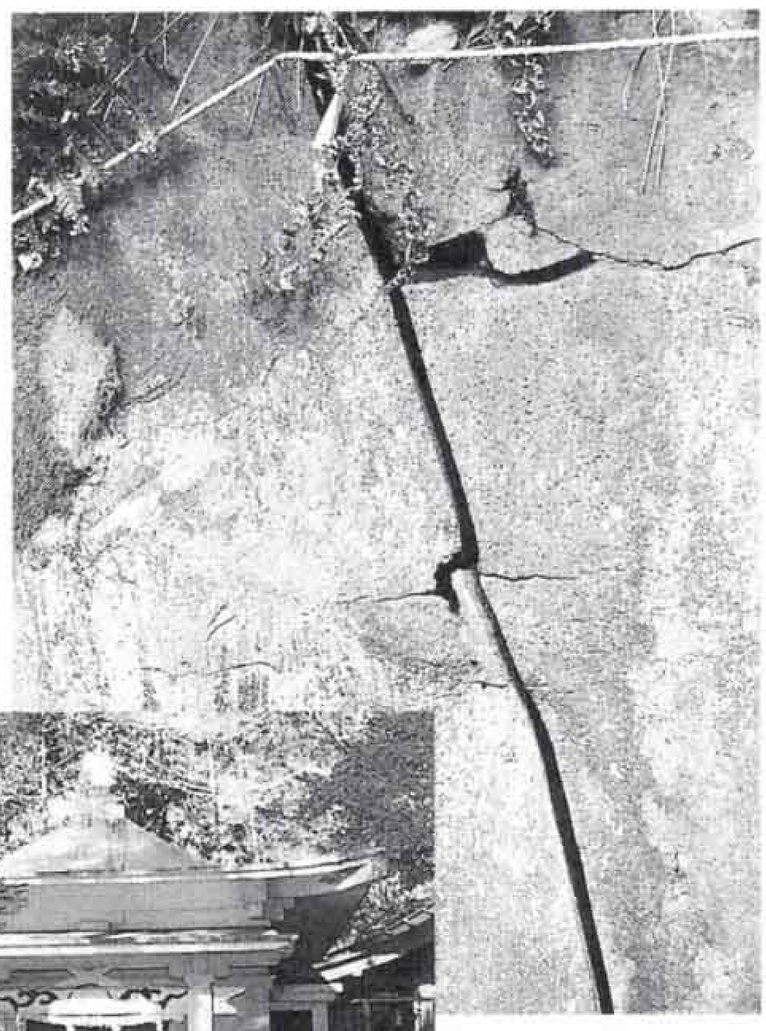
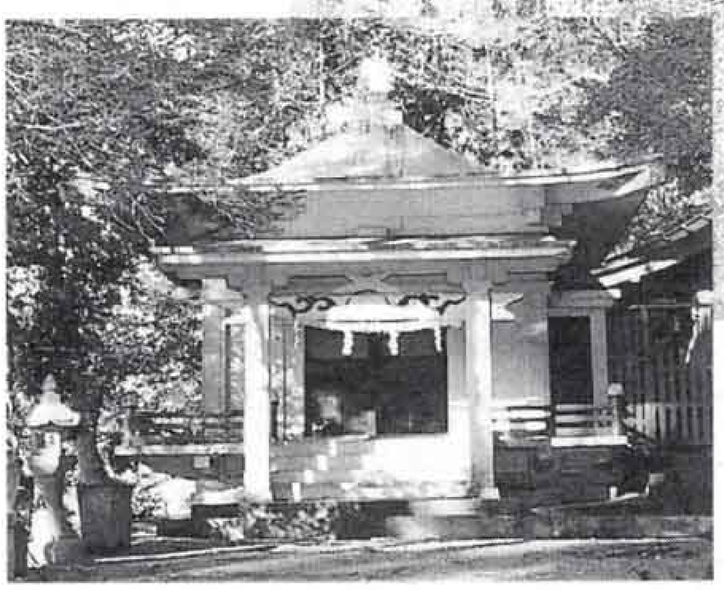
神谷のお不動さんの白蛇

神谷不動院は、本堂の東側が切り立った岩の壁になっていて、そこには斜めに入った割れ目があります。毎年お祭りの日になると、決まって割れ目の奥に光るものが見えるということです。

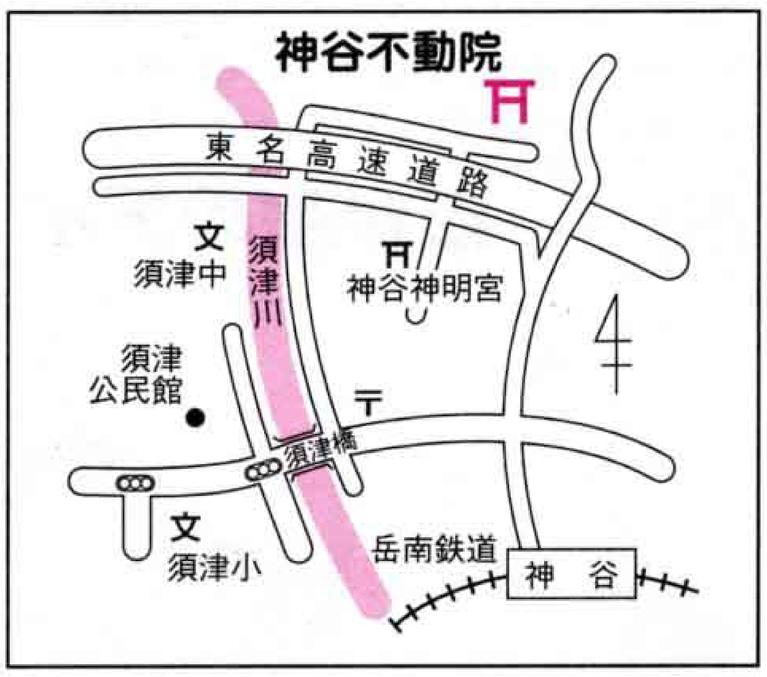

◀白蛇があらわれると言われる岩の割れ目


◀神谷不動院（本堂）

昔、神谷村の後藤某（なにがし）という家の土蔵の中に、いつからか白蛇がすみついていました。別に悪いことをするわけでもなかったので、長い間そのままにしていました。

あるとき、その家の主人が「おまえは世にも珍しい白蛇だ。おまえが本当に神の使いであるならば、この三宝（さんぼう）の上に乗ってみよ」と言いました。するとどうでしょう。その白蛇は静かに三宝の上に乗って、いかにも「私は神の使いである」とでもいうようにとぐろを巻きました。そこで主人は、白蛇を三宝に乗せたまま、不動院の本堂へ持っていって静かに置いて帰りました。

その後、この白蛇は、毎年お祭りの日になると、決まって岩の割れ目に姿をあらわすようになったということです。人々は、その蛇を見た人は近いうちにきっとよいことがあると言い、この白蛇がお不動さんの使いだと信じています。



毎年三月二十八日がお不動さんのお祭りです。二十七日の前夜祭では、本堂で子どもの相撲大会が行われます。私も子どものころに、この相撲大会に参加しましたよ。

東名がなかったころは、お祭りの縁日は神谷神明宮の方から続いていました。お不動さんの周りには馬場もあったそうですよ。東名ができてからは、このあたりもずいぶん変わりましたね。

平成六年の秋ごろ、本堂東側の岩の上に生えていたシイの大木が、台風の突風で本堂に倒れかかったことがありました。倒れた大木をクレーンで引き上げたとき、根っこのあたりの土の中から小さな白蛇が出てきました。お不動さんには、昔は蛇がいっぱいすみついていましたが、あのような白い蛇はだれも見たことがありませんでしたよ。

神谷不動院氏子総代
宮下　幸男（ゆきお）さん
（神谷）

こちら編集室

毎年２・３月になると岩本山には「梅と富士山」の写真を撮りに県内外からたくさんのカメラマンが訪れます。皆さん、朝早くから撮影ポイントに三脚を設置し、じっくり時間をかけてベストショットをねらっています。私はというと、陣取り合戦に敗れ、フィルムには人の頭や腕が写っていることも少なからず。持参する撮影器材は皆さんのものには遠く及ばず、撮影時間もわずかという情けない限り。写真に熱い思いをかける皆さんを見習わなければと反省…。

人　口　240,652人　（前月比＋135）
男　119,732人　（＋50）
女　120,920人　（＋85）
世　帯　81,067世帯（＋68）2月1日現在
編集・発行　富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
☎51-0123　FAX51-1456

ちきゅうにやさしい　富士市
PRINTED WITH SOY INK

ホームページ　http://www.city.fuji.shizuoka.jp/
広報ふじは環境に優しい古紙100％の再生紙と大豆油インキを使用しています